

修繕対象範囲を示す

特記事項
(修繕概要)

- ・既設の空調設備の取替修繕を行う。
※更新箇所は図示による
- ・上記に伴う機械設備修繕

(施工条件)

- ・契約締結後速やかに詳細な工程を調整の上決定すること。
- ・作業着手までの期間に調査及び、施工計画書を作成し、市監督員の承諾を得ること。
- ・作業着手までの施設内調査は、事前に市監督員の承諾を得るものとし、施設運営に影響を与えない範囲とする。
- ・修繕期間中も施設を利用するため、安全対策には十分配慮すること。なお、作業については、原則日曜日及び祝日とし、平日であっても運営に影響のない範囲に限り施工を行うことを認める。
子育て支援室については、内部足場を設置する期間は施設運営を休止するため、監督員、施設管理者と打合せをし、施工の日程を決めること。
- ・停電作業を行う際は施設管理者と打ち合わせをうえて施工を行うこと。
- ・大型車両の出入りの際には誘導員を配置すること。
- ・作業着手前には、現況状況把握の為に破損箇所等あれば、写真に記録しておくこと。また、修繕過程に於いて既存施設に破損等を与えた場合は、受注者の負担に於いて速やかに復旧すると共に市監督員に報告をすること。
- ・設計書に明記なくとも機能上及び構造上当然必要と認められるもの並びに、取合いのはつり補修復旧は本修繕に含む。
なお、内訳書の数量は参考とし、当図面を優先する。
- ・修繕用水、電力については既存の施設を無償で利用できる。但し、施設運営に影響しないよう事前に打合わせのうえ計画し施工すること。
- ・修繕用車両及び修繕関係車両は、周辺道路に駐車しないこと。

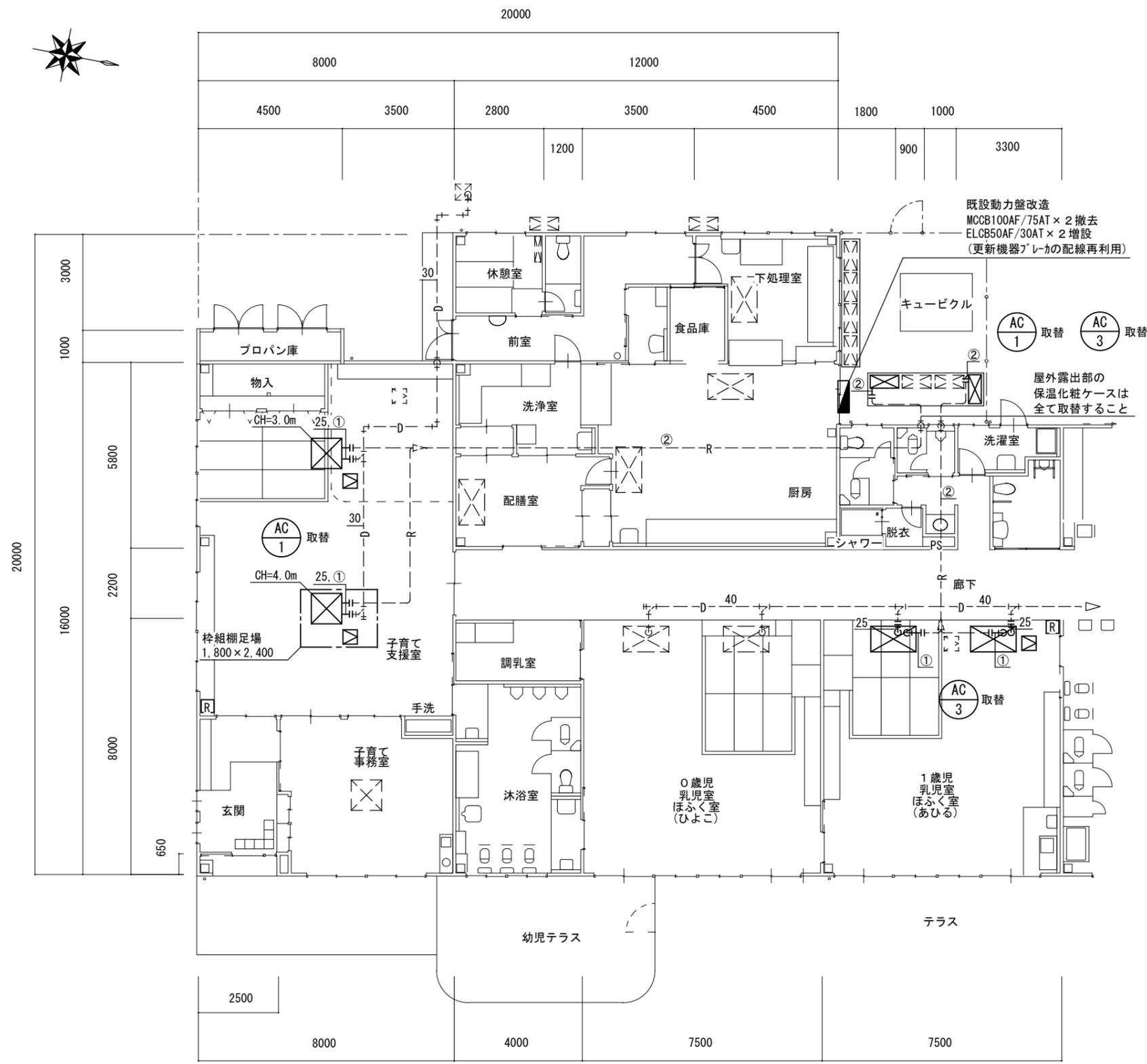
(解体撤去処分)

- ・本修繕により発生する廃材は、産業廃棄物となるため関係法令により適切に処理すること。
また、修繕着手前に、施工方法を記した施工計画書を市監督員に提出し承諾を得ること。
- ・修繕完了後、マニフェストA、B2、D票を市監督員に提示すること。
- ・当該修繕を施工するに当たって施工時にフロン類の充填、回収作業を伴う場合は、フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(令和4年4月1日施行)等の関係法令を遵守し、第1種フロン類充填回収登録業者が行うこと。
- ・修繕着手に先立ち、石綿含有建材の使用について、目視、設計図書及び貸与資料等により書面調査及び現地調査し、監督職員に報告すること。

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、以下による

- 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
「公共建築工事標準仕様書(建築、電気、機械設備工事編)令和4年版」
「公共建築改修工事標準仕様書(建築、電気、機械設備工事編)令和4年版」
「公共建築設備工事標準図(電気、機械設備工事編)令和4年版」
「建築、電気、機械設備工事監理指針令和4年版」
- 独立行政法人 建築研究所監修
「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」

津市川合保育園空調設備取替修繕		縮尺 1/600
図面名称	位置図・配置図・特記事項	原図：A3
津市健康福祉部子育て推進課		No. 1/2



平面図 S=1/150

空調機器表 (撤去) 空冷ヒートポンプ式			
記号	形式・名称	仕様	台数
AC-1	パッケージエアコン	冷房能力: 14.0kW 暖房能力: 16.0kW	1
	天井カセット形4方向	3相200v	
	同時ツイン	既設機器型番: RZYP160D (室外機)	
AC-3	パッケージエアコン	冷房能力: 12.5kW 暖房能力: 14.0kW	1
	天井カセット形1方向	3相200v 下吹出し+前吹出し仕様	
	同時ツイン	既設機器型番: RZYP140D (室外機)	

空調機器表 (新設) 空冷ヒートポンプ式			
記号	形式・名称	仕様	台数
AC-1	パッケージエアコン	冷房能力: 14.0kW 暖房能力: 16.0kW	1
	天井カセット形4方向	3相200v ワイヤードリモコン	
	同時ツイン	標準パネル (西側) 昇降パネル (東側)	
AC-3	パッケージエアコン	冷房能力: 12.5kW 暖房能力: 14.0kW	1
	天井カセット形1方向	3相200v ワイヤードリモコン	
	同時ツイン	標準パネル リニューアルパネル	
		室外機基礎: 既設基礎流用 水平震度 Kh=0.6	

特記事項
 運転特性、能力はJIS条件による。空調機トップランナー基準改定仕様とする。
 冷媒ガスはオゾン破壊係数ゼロとする。
 機器は同等品以上とする。また、グリーン購入法基準を適用するものとする。
 機器の製作仕様は国土交通省仕様とする。
 但し該当しない機器については製造者標準仕様による。

- 空調設備取替要領**
1. 空調室内外機の取替をおこなう。
AC-3については、既設を外を撤去し、端部で閉塞をおこなうこと。
 2. 冷媒管、室内外連絡線、リモコン制御線、室外機電源は既設利用とする。
 3. 集中制御線は、既存の機器が利用できるように接続する。
 4. ドレン管は撤去した機器に接続されていた既設配管に接続する。
 5. 既設のワイヤードリモコンを取替をおこなう。
 6. ドレン管は切離し後、新設機器接続まで養生しておくこと。
 7. アンカーはケムアルカとし、防振ゴムシート (t=10以上) を敷くこと。
 8. 室外機はSUS製ボルトにて固定、ワットにて締付けること。

凡例		
図示記号	名称	備考
—	新設配管	
---	既設配管	
—R—	既設配管 新設配管接続部分	
—R—	冷媒管	空調用保温付被覆銅管 保温厚 液管: 10mm ガス管: 20mm 保温仕様 屋外露出: 保温化粧ケース
—D—	ドレン管	硬質ポリ塩化ビニル管 (VP) 天井内: グラスウール+アルミガラスクロス化粧保温筒
[R]	ワイヤードリモコン	
□	新設天井点検口	□450
□	既設天井点検口	□450

冷媒管リスト			
記号	液管	ガス管	室内外連絡線
①	φ9.5	φ15.9	VVF2.0-3C
②	φ9.5	φ19.1	VVF2.0-3C